

ボーリング柱状図

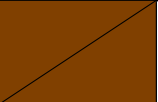

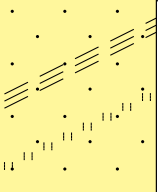

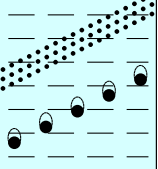
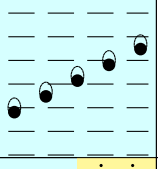
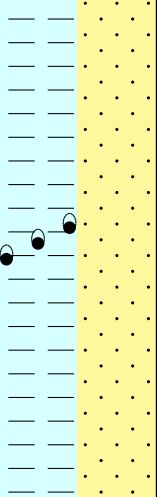
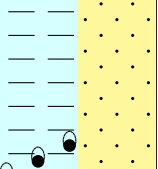
調 査 名 石原与四郎ほか ( 2004)地調研報 , vol.55 , p221-235.

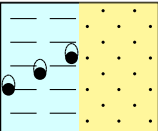




事業・工事名 東京都土木技術研究所 オールコアボーリング調査

ボーリングNO.									
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

シートNO.

ボーリング名	TN ( 都土木研・舎人公園 )		調査位置		東京都足立区古千谷1-16					北緯	35 ° 47 ' 54 ”			
発注機関	東京都土木技術研究所					調査期間	1991__ ~ 1991__					東経	139 ° 46 ' 17.3 ”	
調査業者名	出展：(独)産業技術総合研究所RIO-DB「関東平野の地下地質・地盤データベース」			主任技師		現代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者				
孔口標高	2.883 m	角 度		方 向		地盤 勾配		使用 機種	試錐機	文献・出典の詳細はXMLファイルのフリー情報欄を参照.		ハンマー 落下用具		
総掘進長	40 m								エンジン			ポンプ		

標 尺 (m)	標 高 (m)	層 厚 (m)	深 度 (m)	柱 状 図	土 質 区 分	色 調	記 事	地層岩体区分	孔内水位 (m) 測定月日	試料採取			室内試験
										深 度 (m)	試 料 番 号	採 取 方 法	
10	0.78	2.10	2.10		表土 (SF)			表 土					
	-0.32	1.10	3.20		有機質砂・有機質シルト互層 (SO/MO)		中～細粒砂層と厚さ10cm以下の泥層の互層。植物片・植物根を多く含む。	沖 積 層（デルタプレーン）	2.63 2.63	-175708			C14年代(1760±40 y r BP)
					有機質土混りシルト質砂 (SM-O)		上方へ泥層の挟みが増加し植物根が多くなる。生痕多数。生物擾乱で堆積構造不明瞭。						
	-4.32	4.00	7.20					沖 積 層（プロデルタ～デルタフロント）	8.66 8.66	-175710			C14年代（5380±50 y r BP）
	-4.92	0.60	7.80		貝殻混りシルト質砂 (SM-Sh)		軽微な浸食面で下位のシルトを覆う。径5-10cmのシルトのリップアップクラストを含み、基質にはチューブ状生痕や貝化石片が多い。生物擾乱で堆積構造不明瞭。		10.70 10.70	-175711			C14年代（5890±50 y r BP）
					貝殻混り砂質シルト (MS-Sh)		下位の泥層から上方粗粒化を示す。生物擾乱で推移構造不明瞭。貝化石片（ヒメマスオガイ）を多く含む。		13.10 13.10	-175712			C14年代（5430±50 y r BP）
	-8.92	4.00	11.80		貝殻混りシルト (M-Sh)		塊状の細粒～中粒のシルト。上位の砂質シルトへと上方粗粒化を示す。径1cm以上のチューブ状生痕発達。それを充填する砂・砂質シルトに貝化石片（ヒメマスオガイほか）が含まれる。		16.52 16.52	-175713			C14年代（5840±50 y r BP）
	-12.12	3.20	15.00		貝殻混りシルト・細砂互層 (M-Sh/FS)		Unit3（15-25.5m） 上方細粒化を2回くり返す。泥層が卓越する泥砂互層。泥層は塊状で細粒シルト～粘土。砂層は厚さ1-2cmの細粒砂。上方へ砂層の割合が増え泥の粒度が粗くなる。生物擾乱は上部ほど顕著。全体に直径2cm程度のチューブ状生痕が多い。砂層および生痕を充填する砂中に貝化石片が含まれる。	沖 積 層（エスチュアリーシステム）	20.40 20.40	-175714			C14年代（7560±60 y r BP）
									22.10 22.10	-175715			C14年代（8000±60 y r BP）
	-22.62	10.50	25.50		貝殻混りシルト・細砂互層 (M-Sh/FS)		厚さ1cm程度の細粒～中粒シルトからなる泥層と厚さ1cm以下の極細砂層との細互層。砂層にはしばしばリップル葉理や植物片あり。上部ほど生物擾乱が顕著で、粗粒化する。下位の礫層との境界にカキ化石が認められる。						

40					貝殻混りシルト・細砂互層 (M-Sh/FS)		厚さ1cm程度の細粒～中粒シルトからなる泥層と厚さ1cm以下の極細砂層との細互層。 砂層にはしばしばリップル葉理や植物片あり。 上部ほど生物擾乱が顕著で、粗粒化する。 下位の礫層との境界にカキ化石が認められる。	沖積層（エスチュアリーシステム）	32.40 32.40	-175717	C14年代（7890±60 y r BP）
	-30.82	8.20	33.70								
	-31.62	0.80	34.50		礫 (G)		主として径3-4cmの垂円礫と径1-2cmの円礫からなる。	立川段丘礫層			
					礫 (G)		礫は主に径0.5-1cmの円礫からなる。 まれに径3-4cmの円礫を含む。				
	-33.17	1.55	36.05								
	-34.12	0.95	37.00		ローム (Lm)	茶褐～黄	褐色から黄色のローム層。 36.8mより上位では弱い層理をなす。	下総層群			
					火山灰混り砂 (S-V)		粗～細砂。 塊状で上方細粒化を示す。 生痕化石（Macaronichnus segregatis）多数。 所々粗粒～極粗粒砂や軽石片が混じる。 38.40mに径3-5cmの円礫を含む。				
	-37.12	3.00	40.00								